

1850年創業 「漁民の利益につながる、よい漁具を」



アサヤ株式会社

会社案内



気仙沼本社	〒988-0853	宮城県気仙沼市松川前13-1	TEL: 0226-22-2800	FAX: 0226-22-5434
石巻支店	〒986-1111	宮城県石巻市鹿又中埠25	TEL: 0225-98-7870	FAX: 0225-75-2238
釜石支店	〒026-0002	岩手県釜石市大平町3-9-1	TEL: 0193-22-2410	FAX: 0193-22-2455
宮古支店	〒027-0096	岩手県宮古市崎鋤ヶ崎第11地割10-1	TEL: 0193-62-6234	FAX: 0193-63-3046
階上工場	〒988-0213	宮城県気仙沼市最知南最知304-7	TEL: 0226-27-3008	FAX: 0226-27-2091
越喜来工場	〒022-0101	岩手県大船渡市三陸町越喜来烏頭5-1	TEL: 0192-44-3265	FAX: 0192-44-2130

アサヤは1850年創業の漁具屋で、三陸全域を商圈としています。
代々、「漁民の利益につながる、よい漁具を」の理念を守ってきました。



「針金」の
語源を作った
廣野太兵衛
(二代目)



1971年12月2日 毎日新聞 宮城版 14面

漁民の利益につながる、よい漁具を

三陸の漁業に貢献することこそが、アサヤの仕事の本質。たとえ、他の業者が諦めたとしても、アサヤだけは最後まで諦めずに、三陸の漁業を守る。

社員が主役になれる仕事

アサヤの仕事の主役は社員。主役が貴重な人生を費やす仕事なのだから、楽しさと充実感がなくてはならない。「好き」で「得意」で「裁量」があって「評価」される仕事を作り、皆で力を合わせて頑張って、頑張った分だけ報われる会社を目指す。

三方よしの三百年企業

アサヤの創業は1850年。2050年には創業二百年、頑張れば三百年企業も夢じゃない。そのためには、社員が楽しく働き、お客様に喜ばれ、地域にも貢献する、「三方よし」が大切。地域の模範となる行動を心がけ、「信頼」という財産を遺す。

■ 漁民の利益につながる、よい漁具を

アサヤは1850年創業の漁具屋で、三陸全域を商圈としています。代々、「漁民の利益につながる、よい漁具を」の理念を守り、漁業家の役に立つ資材や機械を提供してきました。

アサヤの歴史は、三陸の漁業への貢献の歴史です。釣糸を作るための麻の買い付けから始まった商売は、時代とともに釣針、ロープ、網、カゴ、樹脂製品、機械と遷り変わってきましたが、本質は創業以来一貫して変わりません。漁業家の話を親身になって聞き、どうすれば役に立てるかを真剣に考える。様々な関係者を巻き込み、漁業家のために一所懸命に行動する。漁業家に貢献して喜んでもらえれば、仕事に張り合いが出てさらにのめり込める。三陸の漁業に貢献することこそが、アサヤの仕事の本質なのです。

漁業家を取り巻く環境がどれだけ厳しくなっても、アサヤはこの姿勢を貫き通します。たとえ、他の業者が諦めたとしても、アサヤだけは最後まで諦めずに、三陸の漁業を守ります。三陸の漁業家にとっての真のパートナー、それがアサヤの目指す姿です。

■ 社員が主役になれる仕事

アサヤにとって最も重要な資産は社員です。アサヤが商売を続けられるのは、お客様に一所懸命に貢献しようと頑張る社員がいるからです。アサヤの仕事の主役は社員なのです。

社員が主役であるならば、社員が仕事を通じて最も輝かなくてはなりません。仕事は人生の大半を費やす活動です。ただ単に自分の時間を切り売りして給与と交換する、そんな食い扶持を稼ぐだけの寂しい仕事では、貴重な人生を費やすだけの価値がありません。仕事をする事自体が楽しくて、仕事をする事で人生が充実する。アサヤはそんな仕事を提供できる会社を目指します。

では、楽しさと充実感のある仕事には何が必要でしょうか。

第一に、自分が取り組む仕事を「好き」であることです。仕事が好きであれば、仕事をする事自体が楽しいし、創意工夫が働くので良い結果が出るし、一所懸命に学ぶので成長します。

第二に、仕事で自分の「得意」なことが活かせることです。得意なことが活かされれば、人より苦勞せずに結果が出せるし、お客様に喜んでもらえて嬉しいし、仕事をさらに好きになります。

第三に、自分で考えて行動できる「裁量」があることです。言われた通りに仕事をするだけでは楽しさも充実感ありません。どうすればもっと喜んでもらえるか、どうすればもっと楽になるか、常に考えながら新しい工夫を積み重ねることが大切です。

第四に、自分の仕事が「評価」されることです。誰にも喜んでもらえない仕事には楽しさも充実感ありません。相手の期待をきちんと知り、期待を満たせるように改善を積み重ね、心から相手に喜ばれる仕事をするのが大切です。

そんな楽しさと充実感のある仕事を通じて、アサヤはより多くのお客様に価値を届け、より多くの対価を受け取り、社員の生活をより豊かにすることを目指します。会社の規模を大きくしたり、多くの利益を残したりするよりも、皆で力を合わせて頑張って、頑張った分だけ報われる会社でありたいのです。会社一丸となって、夢と希望を共有して、全力で邁進する。アサヤはそんな活力のある会社を目指します。

■ 三方よしの三百年企業

アサヤは2015年に創業165年を迎えました。今後もお客様に価値を届け続けることが出来たのなら、2050年には創業200年を迎えることができます。そして、次の世代、その次の世代とバトンを引き継いでいくことが出来れば、2150年には創業300年を迎えることができるでしょう。

そのためには、お客様と社員に加えて、もう一つ大事にすべき存在があります。それは地域です。近江商人の「三方よし」という言葉の通り、「売り手よし、買い手よし、世間よし」のバランスを取ることで、会社は永く継続していくことができます。

では、アサヤが地域に対してできる貢献とは何でしょうか。最も大切なのは社員の日々の行動です。近所の人達に気持ちのよい挨拶をする。草刈りや雪かきなどを進んで行う。地域の行事のお手伝いをする。子ども達やお年寄りの面倒を見る。地域の模範となるような行動が一番の地域貢献なのです。

その積み重ねの結果として、アサヤの人はとても立派だ、アサヤの人に頼めば間違いない、アサヤの言うことなら信頼できる、自分の子供もアサヤで働かせたい、アサヤの活動を応援したい、といった信頼を獲得することは、次の世代に引き継ぐことができる無形の財産となるでしょう。

社員が楽しく働き、お客様に喜ばれ、地域にも貢献する。アサヤはそんな「三方よし」の企業であり続けることを目指します。

基本戦略：顧客への密着

お客様と誰よりも親密な関係を築き、常に相談を持ちかけられるポジションを確立する。

営業戦略：資源・収益・労働力の課題解決

三陸の漁業家が抱える資源・収益・労働力の課題を解決するために全力を尽くす。

- ✓ 「面倒事」 非効率なことを厭わずに引き受ける
- ✓ 「機械化」 機械の導入から保守までを担う
- ✓ 「漁法革新」 新しい方法を開発・提案する
- ✓ 「漁業啓発」 漁業に興味を持つ人を増やす

管理戦略：「社員が主役」の人事制度

育成面談、目標管理など、社員が主役として楽しく充実して働くための環境作りを行う。

また、社員の生活向上を実現するため、報奨制度の検討や給与体系の見直しを行う。

投資戦略：ヒト・モノ・カネ・情報・ブランド

三百年企業を目指して、「ヒト・モノ・カネ・情報・ブランド」という経営資源を磨き続ける。

商品

繊維（ロープ・網・糸）



薬品（防汚剤・塗料）



機械（漁船用・養殖用）



施設（フロート・アンカー・土俵）



備品（カゴ・金物・プラスチック）



仕入



拠点



宮古支店
釜石支店
越喜来工場
気仙沼本社
階上工場
石巻支店

販売



顧客

漁船漁業



養殖漁業



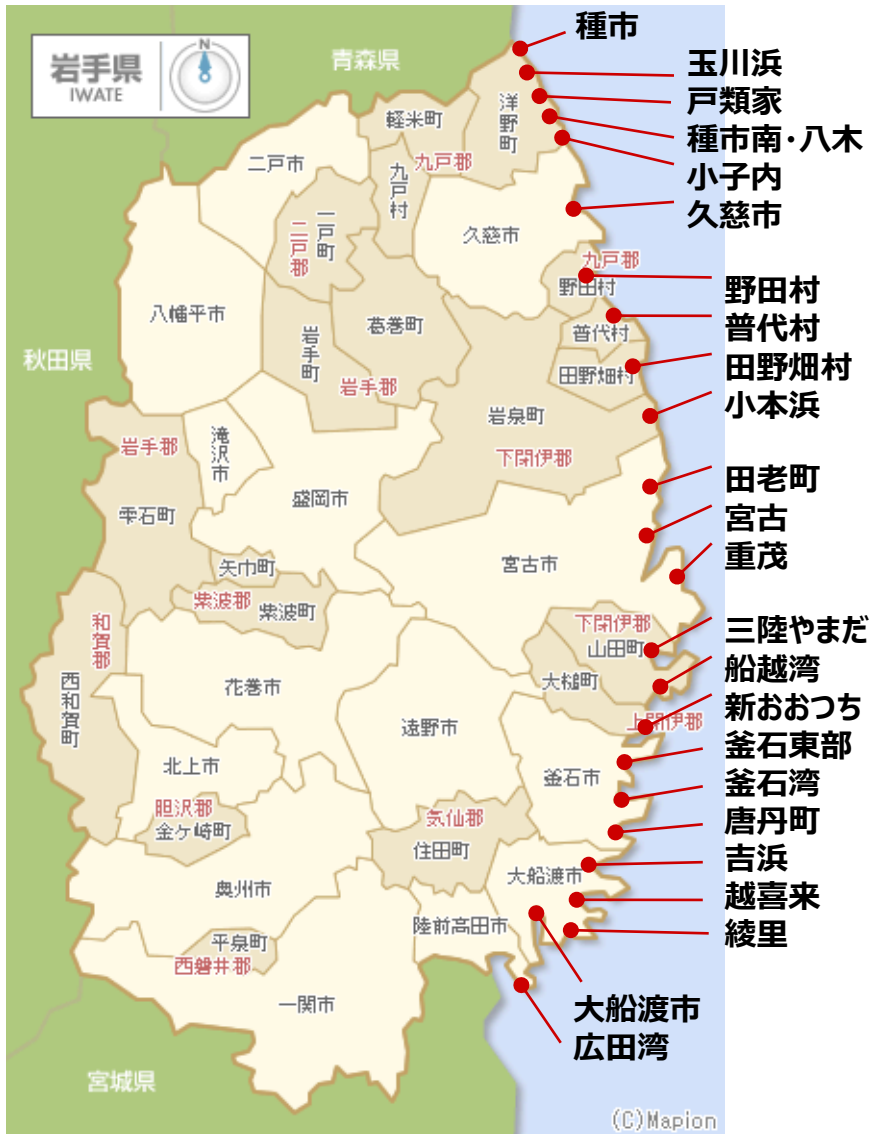
定置漁業



内製作業

- 漁網の仕立て
- 油圧ホースの製作
- 救命筏の整備
- フロートの製造
- 水中ロボットでの漁場調査
- 漁撈機械の修理・整備
- 漁網の防汚加工・染網
- 船舶の塗装

主要商圈 (岩手県・宮城県)



漁船漁業

漁船を主体とした漁業を営んでいる顧客。

気仙沼の遠洋・近海マグロ延縄が大半を占めており、あとはメカジキ突きん棒、イサダ船びき網、サケ縄、サケ刺し網などが含まれる。



画像引用元：[フォト蔵](#)



画像引用元：[Wikipedia](#)

養殖漁業

様々な海面養殖漁業を営んでいる顧客。

主に、三陸全域で行われているホタテ・カキ・ワカメ、岩手南部～宮城のホヤ、宮古のコンブ、宮城北部のギンザケなどが含まれる。



画像引用元：[宇部エクスレ](#)



画像引用元：[漁ログ](#)

定置漁業

定置網を使った漁業を営んでいる顧客。

定置網には都道府県知事の免許が必要で、5年毎に免許の更新がある。岩手・宮城では漁協単位で営んでいることが多い。



画像引用元：[神奈川水産技術センター](#)



画像引用元：[トヤマジャストナウ](#)

繊維 (ロープ・網・糸)



薬品 (防汚剤・塗料)



機械 (漁船用・養殖用)



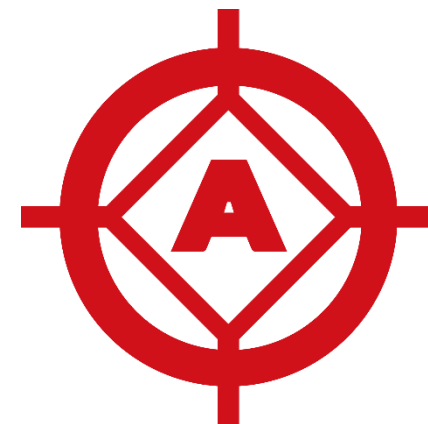
施設 (フロート・アンカー・土俵)



備品 (カゴ、金物、プラスチック)



社名	アサヤ株式会社	
所在地	〒988-0853 宮城県気仙沼市松川前13-1 TEL：0226-22-2800 / FAX：0226-22-5434	
代表者	代表取締役社長 廣野 浩	
資本金	50,000,000円	
従業員数	76名（常勤役員を含む、2015年5月現在）	
創業	1850年（嘉永3年）	
法人設立	1948年5月1日 「株式会社麻屋商店」を設立 1988年6月1日 「アサヤ株式会社」に社名変更	
事業内容	- 漁具・船具・漁業資材・漁撈機械の販売 - 水中ロボットでの漁場調査 - 漁撈機械の修理・整備 （漁撈機械課、鉄工部） - 救命筏の整備 （漁撈機械課） - 油圧ホースの製作 （漁撈機械課） - 漁網の防汚加工・染網 （染網部） - 船舶の塗装 （塗装部） - フロートの製造 （化成部） - 漁網の仕立て （子会社：麻屋漁網株式会社）	



アサヤのロゴマークは、1988年に社名変更した際に、5代目・廣野甚吉がデザインしました。

アサヤの英字表記の「A」、主要製品であるロープの円形、同じく主要製品である網の菱形をモチーフとしています。

アサヤ株式会社

代表取締役社長

営業部門

気仙沼本社

営業部

石巻支店

釜石支店

宮古支店

製造部門

階上工場

漁撈機械課

鉄工部

染網部

塗装部

気仙沼本社

化成部

総務部門

気仙沼本社

総務部

経理部

麻屋漁網株式会社

越喜来工場



アサヤ

(気仙沼市)



江戸後期から150年以上も続く漁具船具の老舗「アサヤ」



廣野 浩さん

社員主役に 漁具を商う

2001年2月23日 気仙沼かほく 4面

現社長の廣野浩
(六代目)

気仙沼出身の陸軍中将・廣野太吉も
アサヤに縁のある人物

屋号ものがたり

22

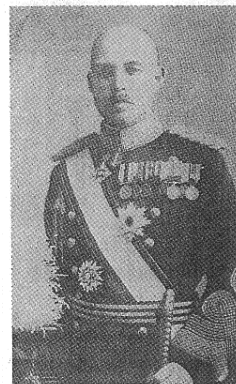


投稿

「陸軍・広野中將」
④
陸軍中将・廣野太吉は、等功級の広野太吉は、戦時中、気仙沼出身の軍人として最前線にあり、町民の憧れの的でもあった。
明治十一年（一八八七年）二月十四日、気仙沼市八日町の旧三郎・屋号麻屋、父・廣野長衛（二代目大兵衛）、母・小松（小松山）の四男として生まれた。
広野家の祖は廣氏。郷の流を汲み、紀州・約針は、古くは鹿有田の出身である。元禄元年（一六八八年）、広野長衛前長政が、氣仙八日町で針師を生業とする人となり、丸針が、い針抜きを家紋とする。

鼎ヶ浦物語

麻屋商店は東果の藩、永三年（一八五〇年）に野太兵衛（初代）から始まり、「広野」の屋号で麻屋を営んでいた。
明治十一年（一八八七年）二月十四日、気仙沼市八日町の旧三郎・屋号麻屋、父・廣野長衛（二代目大兵衛）、母・小松（小松山）の四男として生まれた。
広野家の祖は廣氏。郷の流を汲み、紀州・約針は、古くは鹿有田の出身である。元禄元年（一六八八年）、広野長衛前長政が、氣仙八日町で針師を生業とする人となり、丸針が、い針抜きを家紋とする。
麻屋商店は東果の藩、永三年（一八五〇年）に野太兵衛（初代）から始まり、「広野」の屋号で麻屋を営んでいた。
明治十一年（一八八七年）二月十四日、気仙沼市八日町の旧三郎・屋号麻屋、父・廣野長衛（二代目大兵衛）、母・小松（小松山）の四男として生まれた。
広野家の祖は廣氏。郷の流を汲み、紀州・約針は、古くは鹿有田の出身である。元禄元年（一六八八年）、広野長衛前長政が、氣仙八日町で針師を生業とする人となり、丸針が、い針抜きを家紋とする。



廣野太吉

一年八月一日から二年間にわたり津島藩の司令官として任務。十月十日には天皇陛下が北海道におられる特別大演習を観戦に来る。小樽から札幌、札幌に滞在。函館、函館に滞在。津島藩司令官の廣野少将は、天皇陛下に聖徳の治平並びに戦備視察を賜うべく、大役を果たして、（左見・右見）

2008年9月18日 三陸新報 5面

歩み 9月

気仙沼港

漁具屋帰ってきた跡取り

「ツナシヨッカー」の使い方をツアー参加者に教える廣野さん（中央）（5日）

はえ鰯漁でクロに電気ショックを与え、動きを抑える道具だ。予想つかない答えに参加者は「どう使うの？」と興味津々。魚体を引く要も手かざしと漁具関係者にはおなじみの道具も参加者の目には珍しく、大盛り上がりだ。タコ籠を扱う漁具屋として、ツアーは5日、被災地の漁業に心を配る中、被災地と結ぶことに初めて開いた。

「私も10年前までは、漁具

「これは同じ使った道具でしょ」。気仙沼市の漁具販売会社「アサヤ」の取締役・廣野誠さん（32）は重さ5、6kgのステンレス製のハート形の籠を掲げた。首を回って見ると、同社の倉庫などを見て回る一環だったツアーに市内外から参加した約10人。

正解は「ツナシヨッカー」。

「ツナシヨッカー」の使い方をツアー参加者に教える廣野さん（中央）（5日）

はえ鰯漁でクロに電気ショックを与え、動きを抑える道具だ。予想つかない答えに参加者は「どう使うの？」と興味津々。魚体を引く要も手かざしと漁具関係者にはおなじみの道具も参加者の目には珍しく、大盛り上がりだ。タコ籠を扱う漁具屋として、ツアーは5日、被災地の漁業に心を配る中、被災地と結ぶことに初めて開いた。

「私も10年前までは、漁具

2015年9月16日 読売新聞 宮城版 35面

昔ながらの漁師町にはカラフルなプレスレットがよく似合う。宮城気仙沼市で、漁網を利用した「漁具アクセサリー」が今、話題になっている。

先月行われた体験教室では、参加者が定置網などに使うロープを一心に編み上げ、「気仙沼らしいお土産」を手首につけ、笑顔を見せた。

*** 漁師町 絆のアクセ**

アクセサリー作家の菅原理香さん（34）と共に考案した漁具屋の廣野誠さん（32）は「漁師の仕事にとって切っても切れない大切なロープを通し、被災地とつながってほしい」と話す。

（稲垣政則）

LENS 被災地発

2015年10月10日 読売新聞 夕刊 12面

漁業に興味を持ってくれる人を増やすために
観光客や地元民向けにイベントを開催

気仙沼で 漁業の仕事学ぶツアー

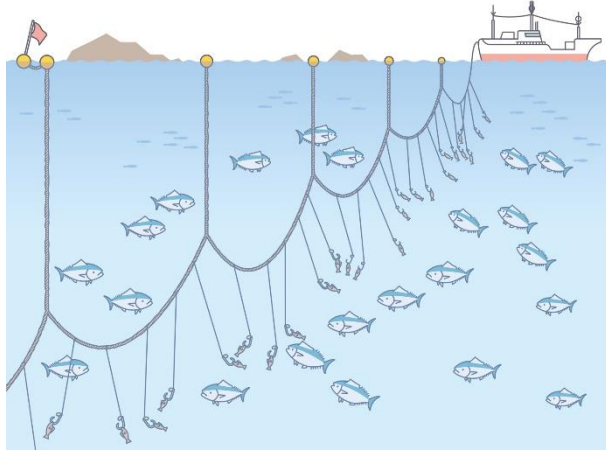
漁業の仕事を知る 気仙沼でツアー

漁業の仕事を知る 気仙沼でツアー

2015年9月26日 NHKニュース

漁法紹介

【延縄】 150～200kmの幹縄に、2～3千本の枝縄を付けて、マグロ・メカジキ等を得る。



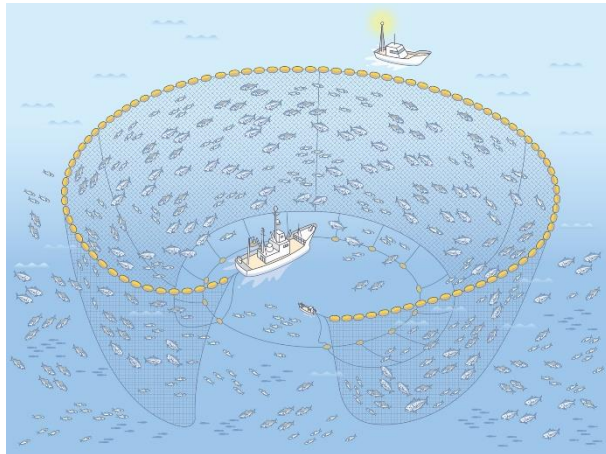
【サンマ棒受網】 網を沈めておき、集魚灯でサンマを集めた後、網を引き上げて得る。



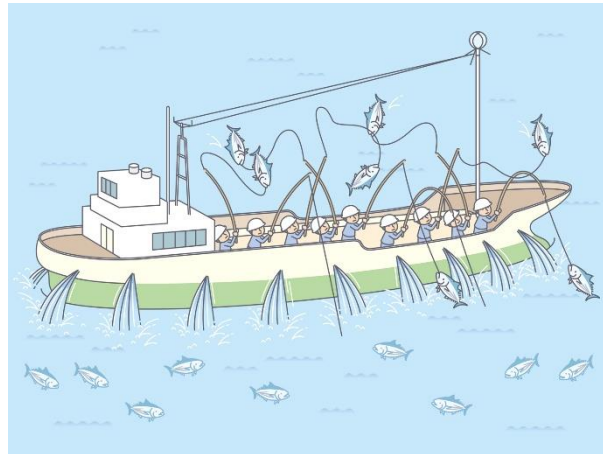
【イカ釣り】 集魚灯でイカをおびき寄せ、自動イカ釣り機でスルメイカ・ヤリイカなどを得る。



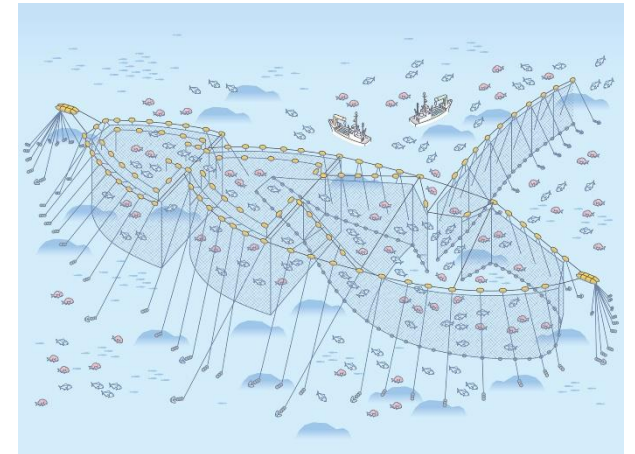
【旋網】 大型の網を漁船で円形に広げ、カツオ・サバ等の魚群を包み込んで得る。



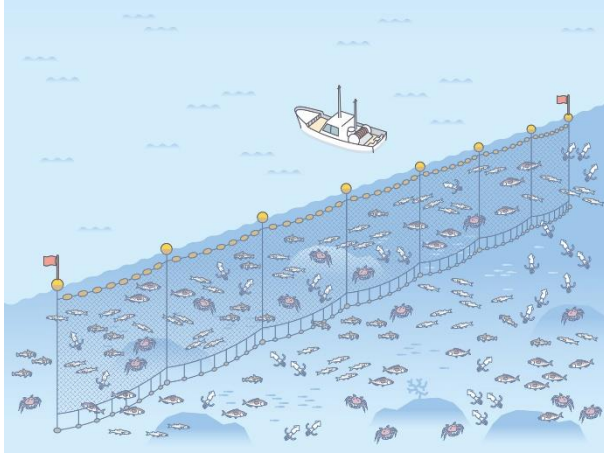
【一本釣り】 カツオ等の魚群を見つけ出し、イワシ等の餌でおびき寄せて釣る。



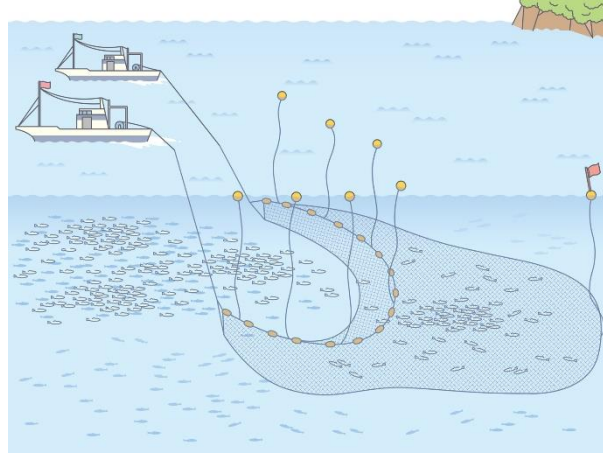
【定置網】 垣網で魚を遮り、昇網で誘導し、箱網で捕まえる。サケ、イワシ、サバ等を得る。



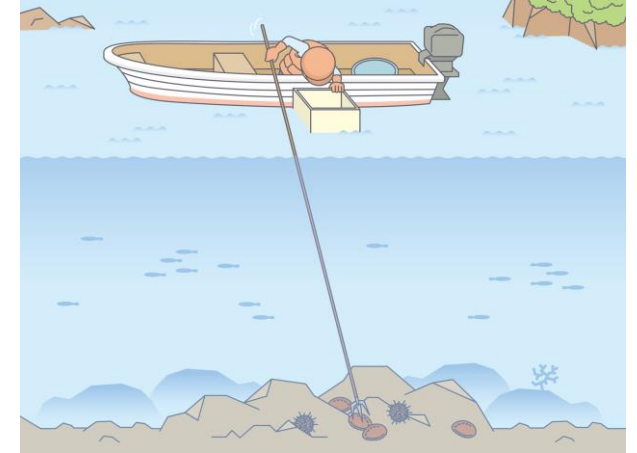
【**刺し網**】 魚の通り道に網を仕掛け、サケ・タウなどを絡ませて獲る。



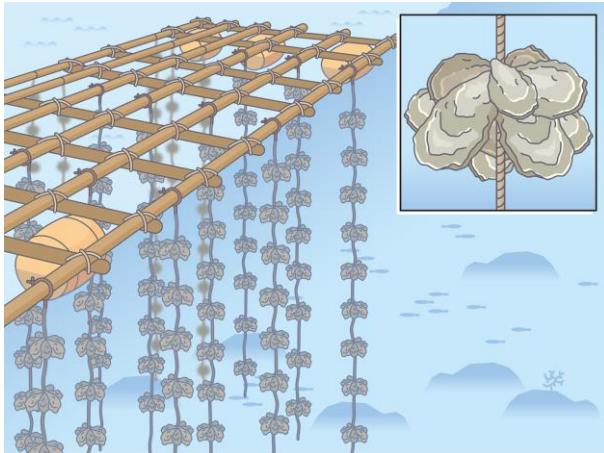
【**船曳網**】 袋状になった網を1～2艘の漁船で引いて、イサダ等を獲る。



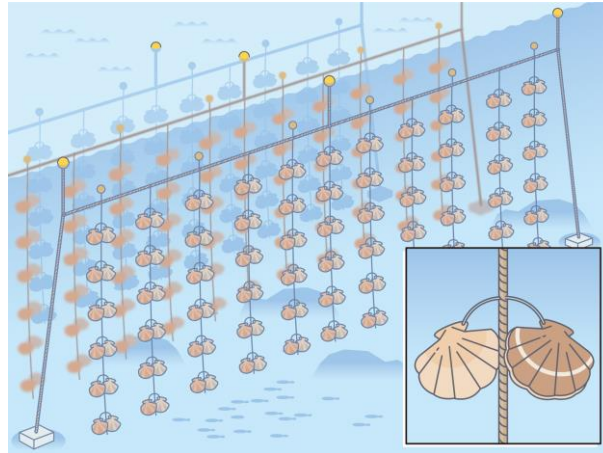
【**採貝・採藻**】 カマ・モリ等の道具を使って、船上から人の手でアワビ・ウニ・海藻類を採る。



【**カキ養殖**】 カキの稚貝が付いた種をロープに挟み、筏から吊るして育てる。延縄の場合も。



【**ホタテ養殖**】 ロープにアゲピンでホタテを括り、延縄から吊るして育てる。筏の場合も。



【**ワカメ・コンブ養殖**】 胞子を着けた種糸をロープに取り付け、筏・延縄に吊るして育てる。

